

3 七戸町の人口

(1) 人口の推移と動向

本町の人口の推移をみると、1960年（昭和35年）から2010年（平成22年）の50年間で11,993人（41.7％）の減少となっています。1975年から1980年の5年間で24人（0.1％）の微増に転じたことがありましたが、1985年から2005年までは5年間毎に約4％台での減少で推移してきました。しかし、2005年から2010年の5年間では9.3％の減少となり、最近の減少率は大幅に拡大しました。

本町における人口減少の主たる原因は他の地方都市と同様に出生率の低下と若年層の流出があり、この人口減少問題は当町の喫緊の課題であるだけでなく、国内全体の深刻な問題となっています。

区分	1960年 （昭和35年）		1965年 （昭和40年）		1970年 （昭和45年）		1975年 （昭和50年）		1980年 （昭和55年）	
	実数	増減率	実数	増減率	実数	増減率	実数	増減率	実数	増減率
総数	28,752	△ 12.8	25,084	△ 12.8	23,970	△ 4.4	22,683	△ 5.4	22,707	0.1
0歳～14歳	11,381	△ 23.4	8,718	△ 23.4	6,884	△ 21.0	5,857	△ 14.9	5,512	△ 5.9
15歳～64歳	16,002	△ 6.4	14,979	△ 6.4	15,459	3.2	14,928	△ 3.4	14,823	△ 0.7
うち15歳～29歳(a)	6,622	△ 17.1	5,492	△ 17.1	5,688	3.6	5,317	△ 6.5	4,629	△ 12.9
65歳以上(b)	1,369	1.3	1,387	1.3	1,627	17.3	1,898	16.7	2,372	25.0
(a)/総数 若者比率(%)	23.0	21.9	-	23.7	-	23.4	-	20.4	-	-
(b)/総数 高齢者比率(%)	4.8	5.5	-	6.8	-	8.4	-	10.4	-	-

区分	1985年 （昭和60年）		1990年 （平成2年）		1995年 （平成7年）		2000年 （平成12年）		2005年 （平成17年）	
	実数	増減率	実数	増減率	実数	増減率	実数	増減率	実数	増減率
総数	22,342	△ 1.6	21,237	△ 4.9	20,209	△ 4.8	19,357	△ 4.2	18,471	△ 4.6
0歳～14歳	5,046	△ 8.5	4,144	△ 17.9	3,280	△ 20.8	2,676	△ 18.4	2,317	△ 13.4
15歳～64歳	14,533	△ 2.0	13,777	△ 5.2	12,960	△ 5.9	12,099	△ 6.6	11,261	△ 6.9
うち15歳～29歳(a)	3,791	△ 18.1	3,387	△ 10.7	3,303	△ 2.5	3,149	△ 4.7	2,666	△ 15.3
65歳以上(b)	2,763	16.5	3,316	20.0	3,969	19.7	4,565	15.0	4,893	7.2
(a)/総数 若者比率(%)	17.0	-	15.9	-	16.3	-	16.3	-	14.5	-
(b)/総数 高齢者比率(%)	12.4	-	15.6	-	19.6	-	23.6	-	26.5	-

区分	2010年 （平成22年）	
	実数	増減率
総数	16,759	△ 9.3
0歳～14歳	1,949	△ 15.9
15歳～64歳	9,656	△ 14.3
うち15歳～29歳(a)	1,824	△ 31.6
65歳以上(b)	5,154	5.3
(a)/総数 若者比率(%)	10.9	-
(b)/総数 高齢者比率(%)	30.7	-

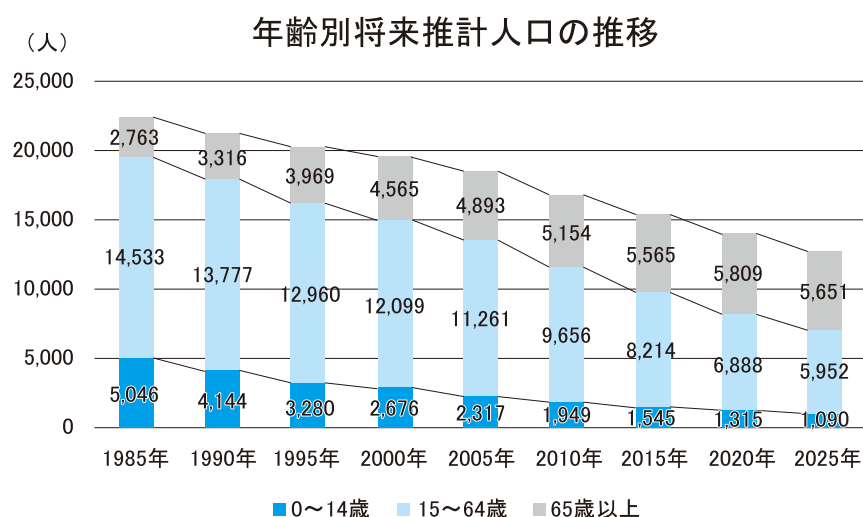
資料：国勢調査  
(2000年（平成12年）年齢不詳17人)

## (2) 年齢別人口の推移と将来予測

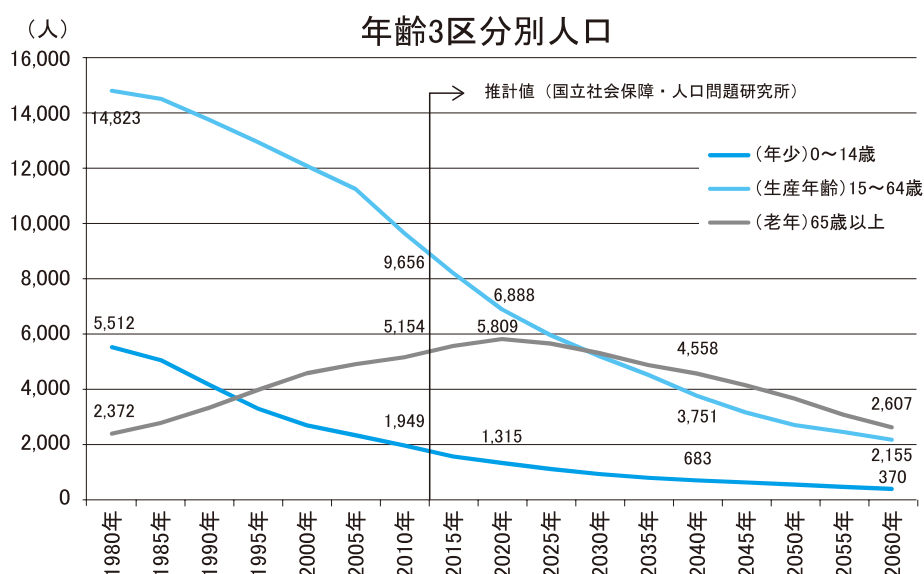
平成22年（2010年）の国勢調査結果をもとに、2025年までの年齢別人口推移を予測したのが以下のグラフです。

0歳から15歳までの子どもは1,949人から44.1%減の1,090人に、15歳から64歳までの生産年齢人口は9,656人から38.4%減の5,952人に、65歳以上の高齢者人口は5,154人から9.6%増の5,651人に、総人口で16,759人から24.3%減の12,693人に減少すると予測されています。

この現象は、全国の地方都市に共通して見られるものですが、将来の七戸町を豊かにするためには、子どもを産み育てる環境の整備、産業を支える若者の定着、高齢者の生活に配慮した政策が求められます。



資料：2005年～2010年（国勢調査）/ 2015年以降（国立社会保障・人口問題研究所推計）



資料：1980年～2010年（国勢調査）/ 2015年以降（国立社会保障・人口問題研究所推計）

### (3) 人口構成の推移と将来予測

2010年の人口ピラミッドを見ると、最も多い年齢層が55歳から64歳となっており、既に年少人口や生産年齢人口が減少してきている様子が見られます。

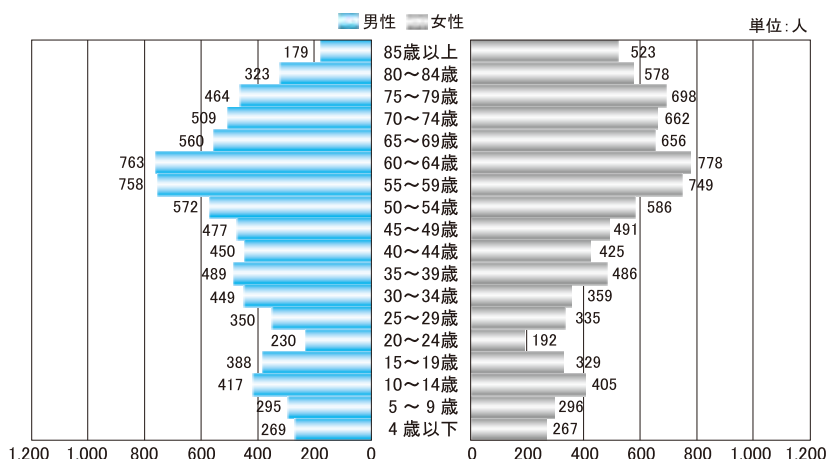
2040年には85歳以上の年齢層が突出して多く、54歳以下の5歳階級では男女各100人台になってしまう“T字”のような非常にバランスの悪い人口構成になることが推計されています。

2040年の人口ピラミッドを見ると、2040年以降もT字のまま全体的に人数が縮小していく推計となっています。

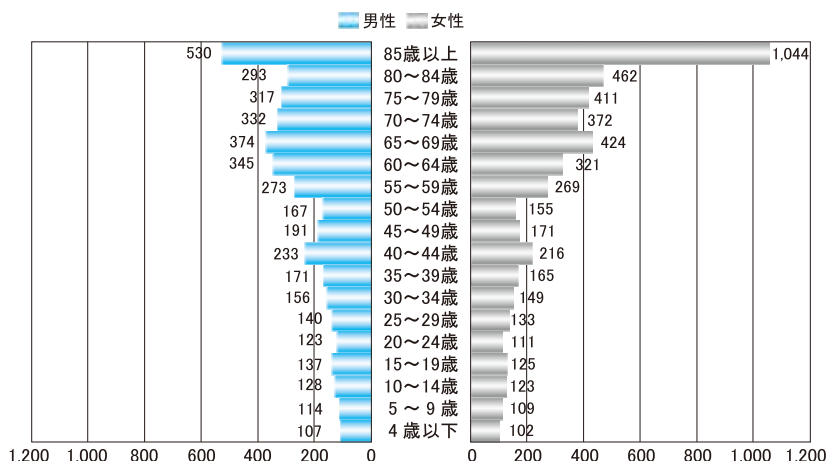
「少子化対策」に取り組むことが大きな課題であることが明らかとなりました。また、生産年齢人口の減少により、地域のサービスの低下、人材不足の状況が深刻化すると予想されます。

加えて、後期高齢者の増加により医療費・社会保障費の増大も確実となるため、これらの対策に取り組むことが重要課題となることが明らかとなりました。

#### 2010年 人口ピラミッドグラフ



#### 2040年 人口ピラミッドグラフ

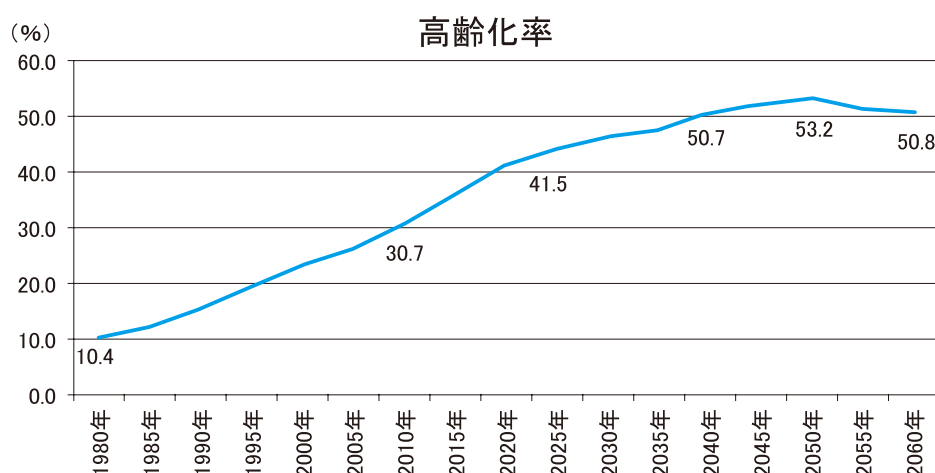


資料：2010年（国勢調査）/ 2040年（国立社会保障・人口問題研究所推計）

#### (4) 高齢化率の推移と将来予測

2010年に約3割だった高齢化率（総人口における65歳以上人口の割合）は、2040年には5割を超えると予想されています。

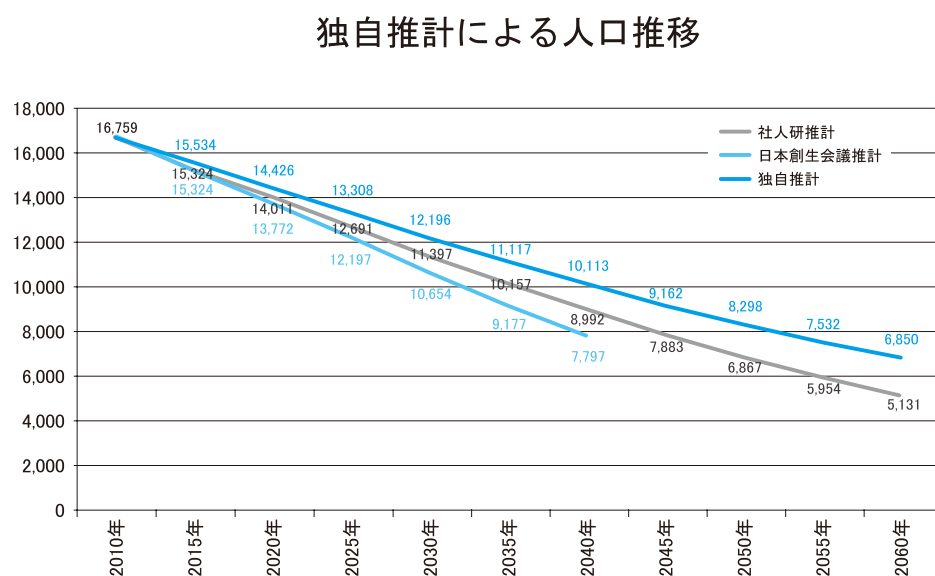
集落の高齢化率が5割を超えると「限界集落」とされていることを踏まえると、このグラフは七戸町自体が限界自治体になることを示しています。



資料：1980年～2010年（国勢調査）/ 2015年以降（国立社会保障・人口問題研究所推計）

#### (5) 独自設定による推計

七戸町人口ビジョンでは、出生数の向上、転入者の増加、転出数の減少に総合的に取り組むことにより、本町の人口は2020年14,426人、2040年10,113人、2060年6,850人を目指すこととします。



## 第3部 町民のまちづくりへの意識

### 1 七戸町長期総合計画に関するアンケート調査の結果

#### (1) 実施期間

平成27年7月

#### (2) 調査方法と回収状況

調査対象 住民基本台帳より無作為抽出した20歳以上の七戸町民1,600人

配布と回収 役場より郵送配布、郵送により回収

回収数 607

回収率 37.9%

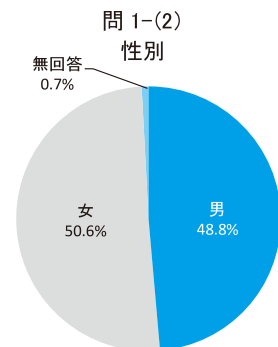
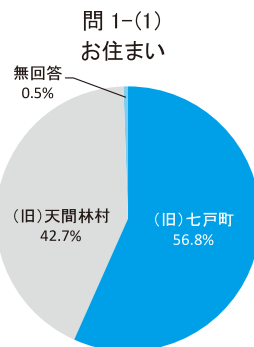
#### (3) 設問の構成

設問は回答者の属性（居住地、性別、年齢、職業等）のほか、①都市基盤、②産業、③健康・福祉、④生活環境、⑤教育文化、⑥連携・交流、⑦住民と行財政7分野に沿った31項目について、現状への満足度、課題の大切さ（重要度）を尋ね、5段階評価により回答を得ました。さらに、平成17年度調査結果との比較を行いました。

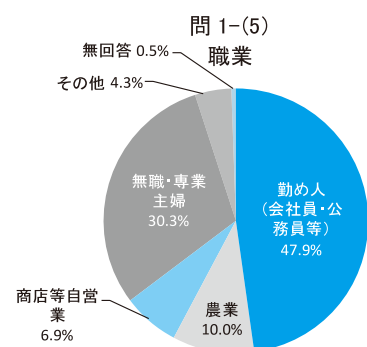
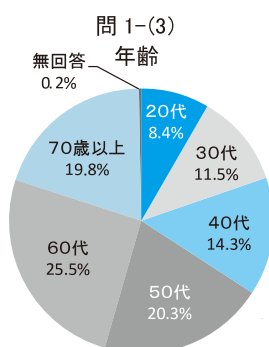
※アンケート票は参考資料に収録

#### <属性>

問1 回答者の6割弱は旧七戸町在住で、男女比はほぼ同数でした。



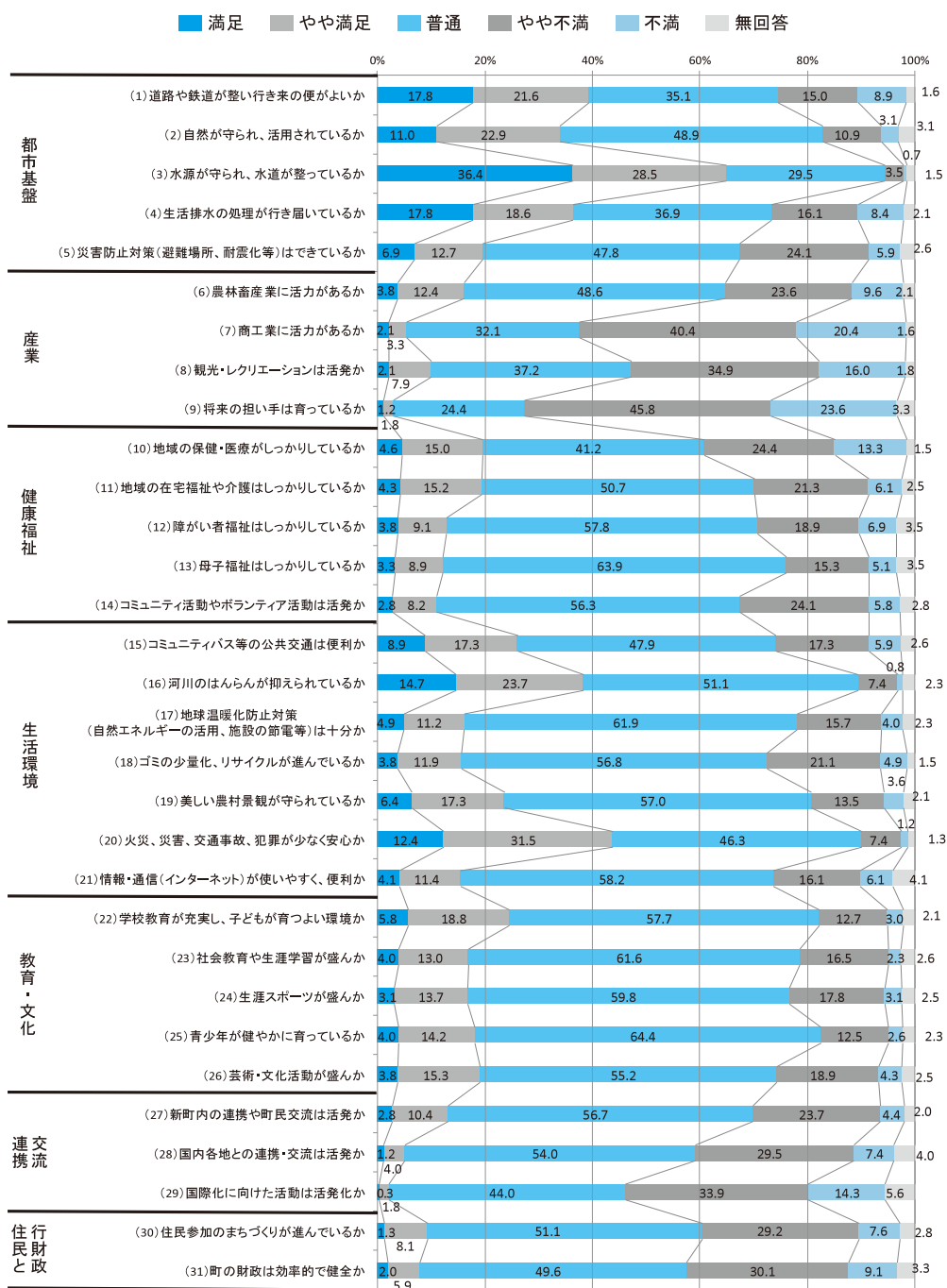
60代以上で半数弱を占めています。勤め人が半数弱と多く、3割が無職または専業主婦でした。



## (4) 町の現状への「満足度」比較（問2）

7つの分野、31項目で現状の満足度を聞いたところ、「都市基盤」、「生活環境」分野の満足度が高く、「連携・交流」、「住民・行財政」分野の満足度は低い結果が出ました。

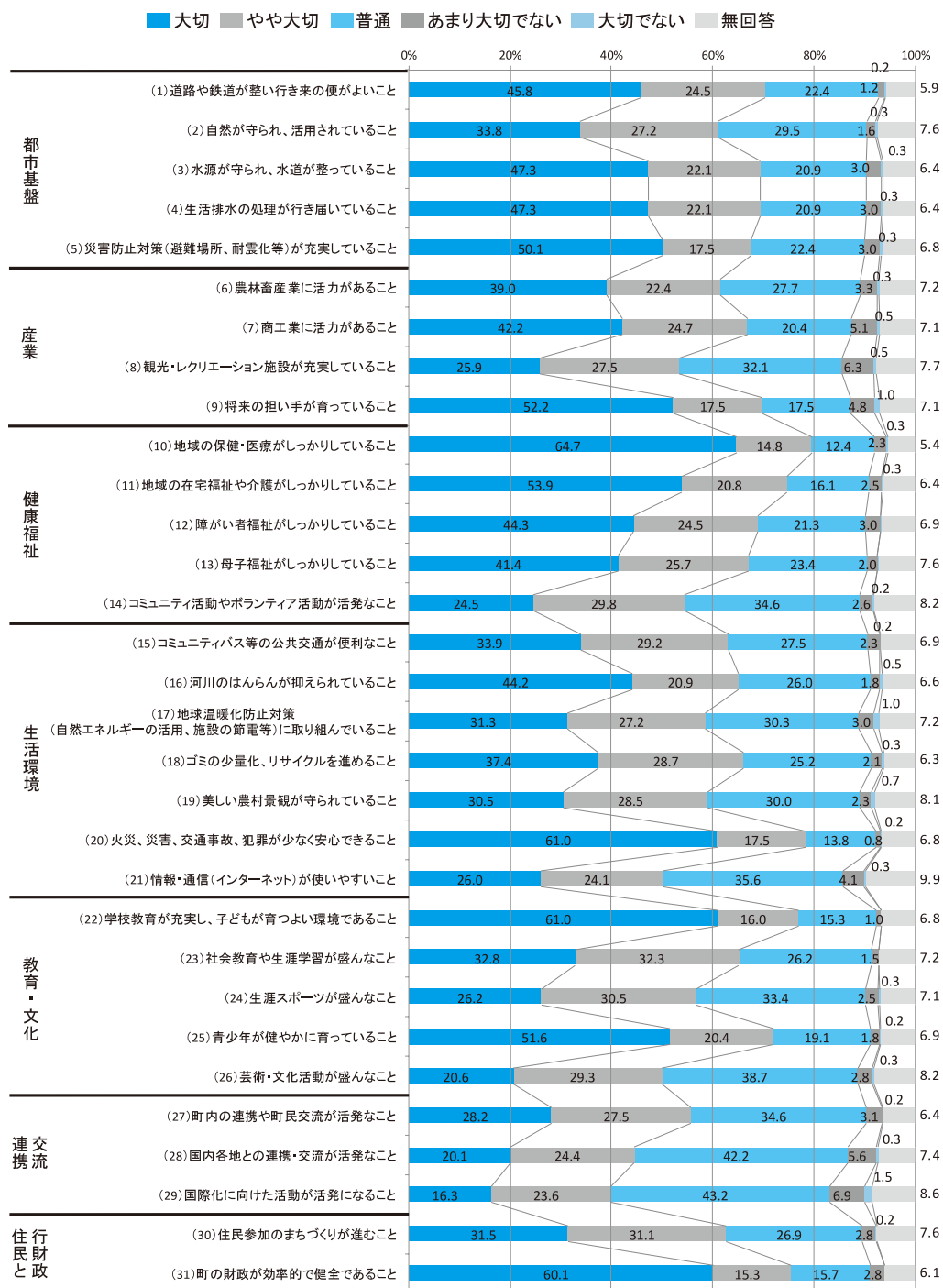
問2 町の現状への「満足度」について



### (5) 町の将来への「重要度」比較（問3）

同様に、7分野31項目ごとに大切さ、将来への重要度を聞いたところ、「都市基盤」、「産業」、「健康福祉」分野を重要と答えた割合が多い結果となりました。

#### 問3 暮らしの課題の「大切さ」「重要性」について



## (6) 各項目の平均点比較

7つの分野、31項目の5段階評価の平均点を比較してみました。平均点が5に近いほど高い評価を示しています。

満足度も重要度も高い項目は、重要と思うことが施策に反映され、評価されていると見ることができます。

満足度が低く、重要度が高い項目は、住民が重要視しているにもかかわらず、不満の多い項目で、なんらかの対策を講じる必要のある項目と見ることができます。

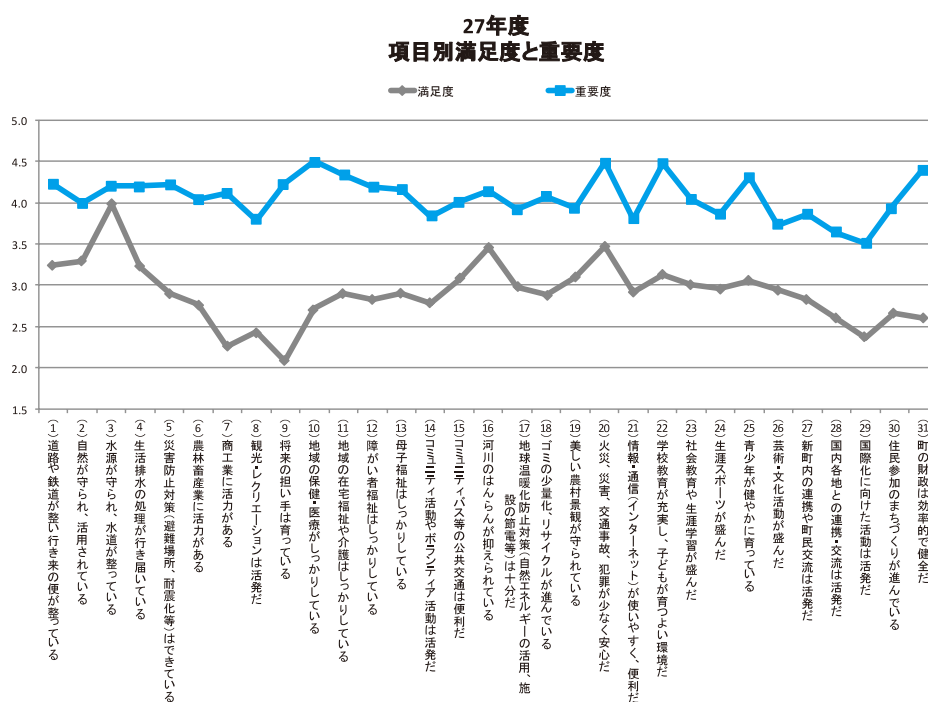
### <満足度>

町民は「水源が守られ、水道が整っている」、「火災、災害、交通事故、犯罪が少なく安心」、「河川のはんらんが抑えられている」ことには満足しています。

「観光・レクリエーション」、「国際化に向けた活動」、「商工業の活力」では満足度は低く、「将来の担い手は育っているか」にはあまり満足していません。

### <重要度>

町民は「地域の保健・医療」、「火災、災害、交通事故、犯罪が少ないこと」、「学校教育の充実と、子どもが育つよい環境」を重要と捉えています。



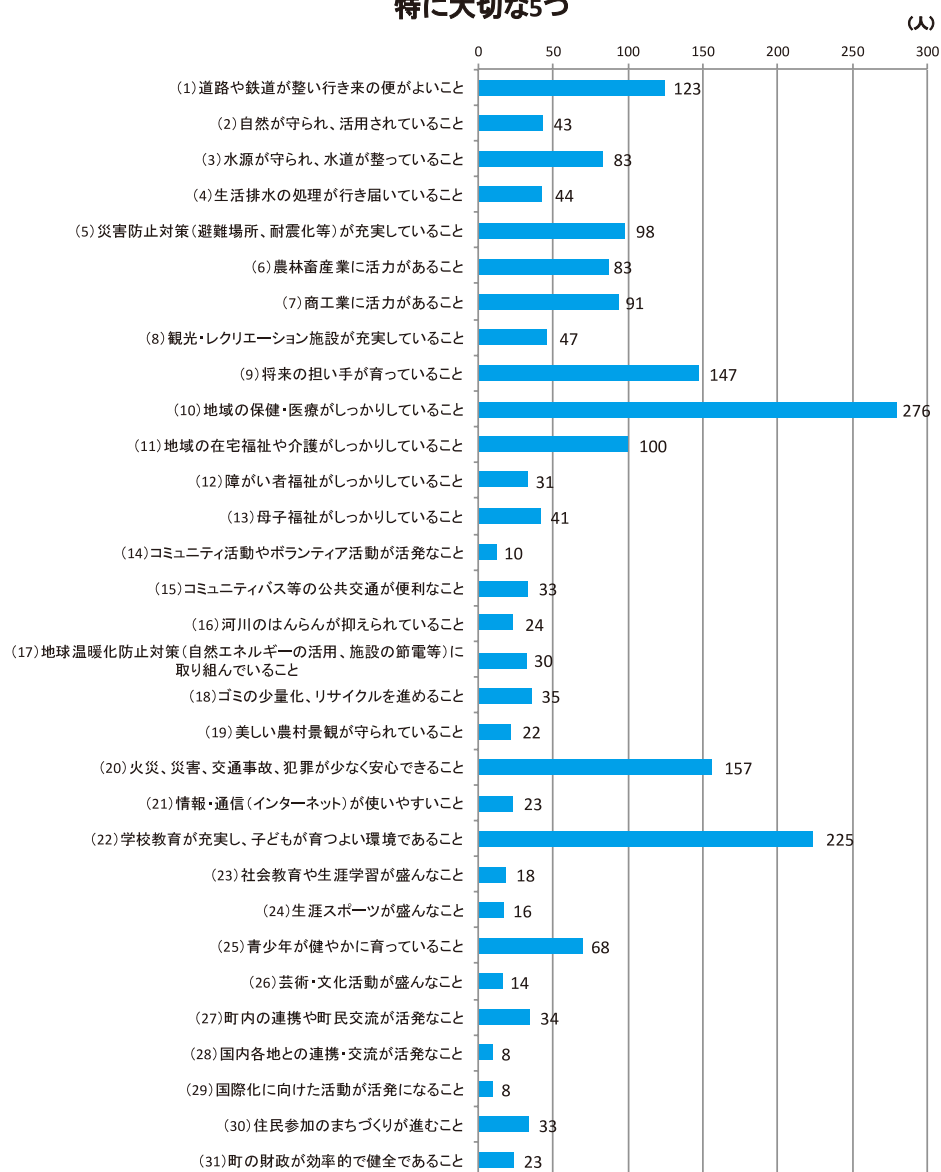


## (7) 各項目のなかで特に大切な5つ

7つの分野、31項目のなかで、特に大切だと思う5項目を選んでもらいました。

その結果、「地域の保健・医療」、「学校教育の充実と、子どもが育つよい環境」「火災、災害、交通事故、犯罪が少ないこと」、「将来の担い手が育っていること」、「道路や鉄道が整い便利なこと」が大切という項目が際立っていました。

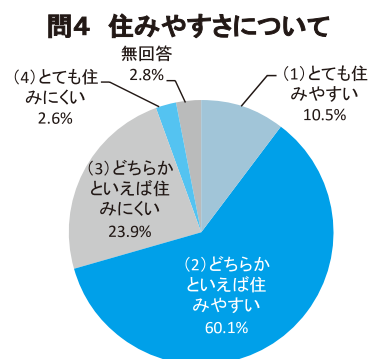
問3 暮らしの課題の「大切さ」「重要性」について  
特に大切な5つ



## (8) 住みやすい七戸町について (問4)

七戸町は住みやすいかを聞きました。

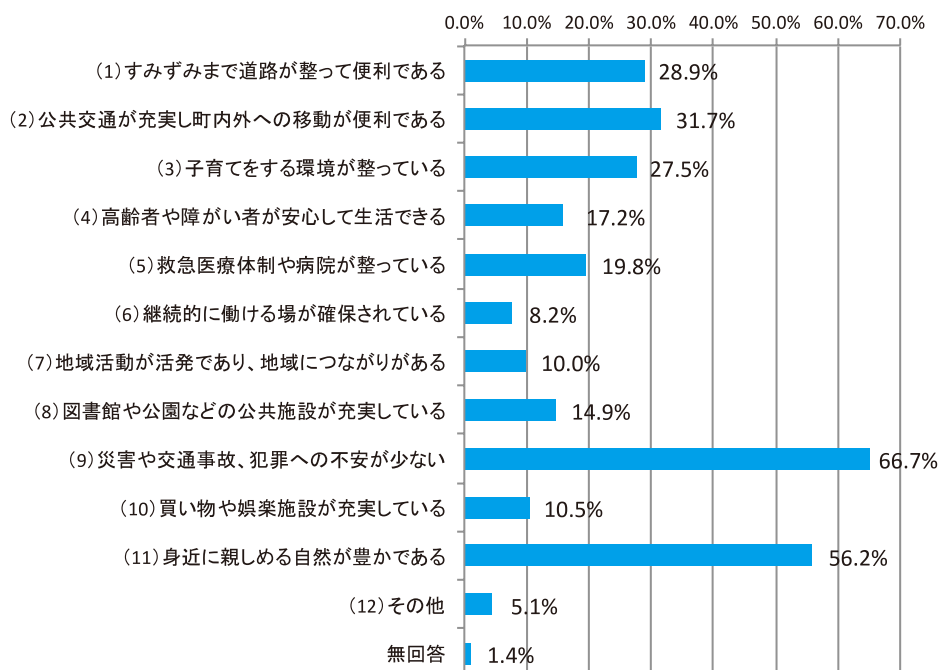
1割の人は「とても」、6割の人が「どちらかといえば」住みやすいと答えました。



## 住みやすい理由 (問5)

七戸町が住みやすいと答えた人は、その主な理由として「災害や交通事故、犯罪への不安が少なく」、「身近に親しめる自然が豊かである」からと答えています。

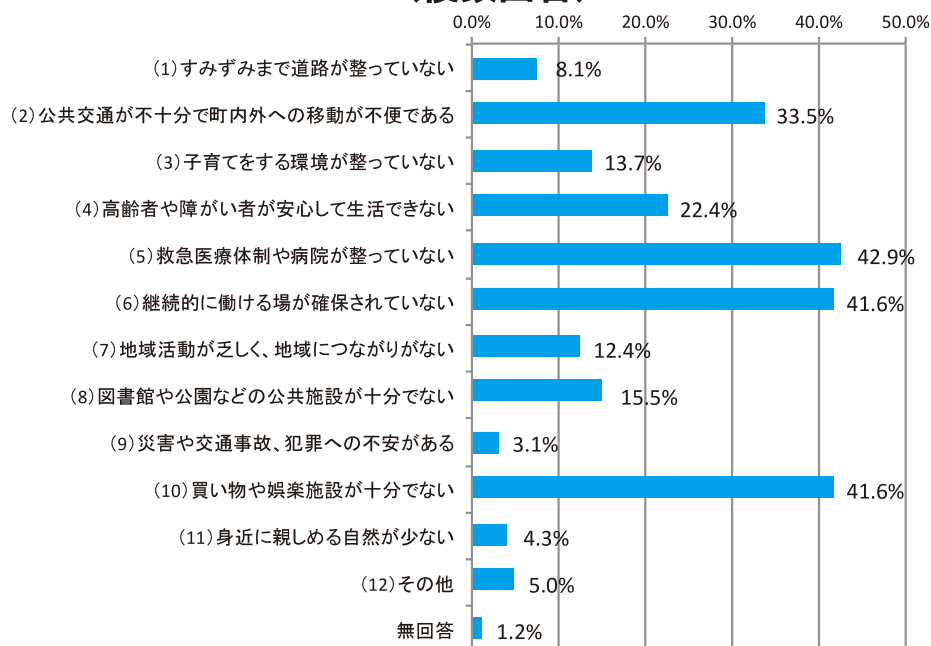
## 問5 住みやすい理由 (複数回答)



### 住みにくい理由（問6）

反対に「住みにくい」と答えた人は、その主な理由を「救急医療体制や病院が整っていない」、「継続的に働ける場が確保されていない」、「買い物や娯楽施設が十分でない」、「公共交通が不十分で移動に不便だ」からと答えています。

#### 問6 住みにくい理由 （複数回答）



## (9) 平成17年度調査との各項目の満足度比較

平成17年度に実施した町民意識アンケートの結果と、今回の結果を比較しました。

満足度においては、「水源・水道」は10年前と同様高く、そのほかの項目も上がっていましたが、「商工業の活力」の満足度は10年前より下がっていました。

※(5)(8)(9)(13)(17)は17年度調査にはありませんでした。

27年度  
項目別満足度の比較

